



ダブルディグリー・プログラムの派遣側の経験 — 派遣学生の指導教員として —

2019年5月27日

北海道大学 公共政策大学院／経済学研究院

町野和夫

内容

- 経済学院のダブルディグリー・プログラム
- 過去の交換留学（学部ゼミ）の経験
- ヨーテボリ大学とのダブルディグリー・プログラムの経験
（現在進行中）

経済学院のダブルディグリー・プログラム

相手校	派遣期間
ヨーテボリ大学（スウェーデン）	修士1年次8月下旬から翌年5月頃*
国立台湾大学**	修士1年次8月下旬から翌年5月頃
延世大学（韓国）**	修士1年次3月下旬から12月頃

* 期末試験が早く終われば2年目の前期科目の受講も可能。

** 協定を締結したばかりで実際に受入れ、派遣の経験なし。

詳しくは高井准教授の説明を参照。

過去の交換留学等（学部ゼミ）の経験

- ゼミの時間帯が15時から18時なので、ヨーロッパは授業の開始前、米国西海岸は深夜（ハワイなら夜）なので、スカイプでゼミに参加することも可能。（東海岸は未明なので難しいが、東海岸留学生はたまたま今までいなかった。）
- レポートについてもメールでやり取り可能。
- 過去のスカイプでのゼミ参加経験者：ヘルシンキ大学（時差7-8）、ハワイ大学（時差19）、アバディーン大学（スコットランド時差8-9）、西海岸の短期語学留学（時差15-16）

ヨーテボリ大学とのダブルディグリー・プログラムの経験 (現在進行中) からの指導上の留意点

派遣前：先方の大学の受入れ要件を満たす科目を前期に履修させる。

派遣中：必要に応じて専らメールで状況を確認しながら相談を受ける。当該学生は、問題なく修学していたので、1か月に1度程度。

派遣後（現在）：修士論文について、相談しながら枠組みを夏までに固め、学生が先方の指導教員とも相談しながら執筆を開始。来年1月に審査。（審査の方法は大学によって異なる。学年の開始・終了時期が異なるので、終了が早い大学に合わせて調整が必要。）